

作文添削講座Ⅰ期

(適性検査型Ⅰ)

練習問題Ⅰ (五十分) (全三ページ)

〈提出期間：二〇二三年十月二日～十二月二十三日〉
添削をご希望の方は、ホームページからお申し込みください。

□ 次の文章を読んで、あとの問題に答えなさい。

(* 印のついている言葉には、本文のあとに「注」があります。)

二十年ほど前になるだろうか、あるシンポジウムで、日本のデザイン界の * 重鎮^{じゅうちん}ともいふべき方と同席した。彼は、デザインとは「表面を変える」ことだと、きわめて明快に言い放った。目の前のマイクをさして、「これをラッカーで黄色に塗^ぬるでしょう、するとマイクはまったく別の存在になっ
てしまいます」と。

デザインのこの定義にはうなった。ファッションデザインなんかを考えると、もつと分かりやすいかもしれないが、モノの、あるいはひとの、表面を変えることで、それに接するひとの気分が変わり、取り扱^{あつか}いが変わる。つまり、関係がごろっと変わってしまうのである。

現代を代表するデザイナーのひとり、深澤^{ふかさわ}直人^{なおと}さんもまた、デザインとは「サーフェスの変形」だと言う。サーフェスとはやはり「表面」だということだが、このときにはじぶん以外のものとの接点、もしくはそれにふれたときの感^{かん}触^{しよく}というニュアンスがより強い。サーフェスを変えることで、ひとのふるまいが変わる。何かをしたくなる、何かをさぐりにゆく、身体がむずむずする……。

その深澤さんは、ある著作のなかでとても大切なことを言っている。建築から番組制作まで、おざなりなデザインというのは、どこか人を * あしらったところがある。『こんなものでいい』と思いつながら作られたものは、それを手にする人の存在を否定する』というのである。

そして、深澤さんはこう続ける。人間は「あなたは大切な存在で、生きていく価値がある」というメッセージをいつも探し求めている生きものだ。

だから、「これは大事に使わなければならない」と思わせるもの、あるいは逆に、「手に取った瞬間^{しゆんかん}にモノを通じて自分が大事にされていることが感じられる」もの、それがよいデザインだというのである。

いろいろ思い当たるふしがある。わたしが通った小学校は、明治のはじめに造られた古い学校である。何度か改築されたのだろうが、わたしたちの教室があった本館は当時のままである。通っているときには気づかなかったが、先日四十年ぶりに訪れて、おどろいた。段差の小さい階段は大理石、手すりは彫^ほりをほどこした木製の柔^{やわ}らかい手ざわりのものだった。子どもたちは無意識に、おとなたちがじぶんたちを大事に思っていることを、校舎をかけずり回りながら、肌^{はだ}で感じていたにちがいない。

歩いていていい街だなあと感じるときにも、同じような思いに浸^{ひた}される。掃除^{そうじ}が行きとどいていてということもあるが、それも含^{ふく}めて、住民がじぶんたちの住む場所を大切に思っているらしいことが、そこかしこで感じられる街は、どこか風格がある。

人間についてもきつと、同じことが言えるのだろう。もうどうでもいいと、じぶんの身体を傷つけたたり、自暴^{じぼう}自棄^{じき}になったりするのには、じぶんのことを大切に思えないような状態のなかにいるということだ。じぶんを大事に思う気持ち、これは昔から「自尊心」と呼ばれてきたが、「自尊心」もまた、他人に大事にされてきた、ていねいに扱^{あつか}われているという体験を折

り重ねるなかで、じぶんはそれほど大切な存在なのだと思われるところからしか生まれてこない。

たしかにいまの子どもはたつぷりと玩具がんぐを与えられる。ぬいぐるみ、積み木、子ども用のカラオケ、ゲーム機ごうせいせんい。合成繊維、ビニール、プラスチック、そして電子の声……。ほとんどの玩具が、深澤さん流の言い方をすると、「こんなものでいいでしょ」という感覚で作られている。はたして、ここからはどんな「自尊心」が生まれるのだろうか。

心理学者の霜山徳爾しもやまとくじさんがある料理人の言葉として紹介しょうかいしているのに、こんなものがある。「ものの味わいの判る人は人情も判るのではないかと思ひやす」。じぶんのために働いてくれるひとへの思いがないと、味は分からないというのである。じぶんのために何かをしてもらっている、じぶんがいていねいに、そして大事に扱われている、そういう体験こそが、いつか「自立」のための、栄養たつぷりの腐葉土ふようどになるのだと思う。

(驚田清一『大事なものは見えにくい』より)

【注】

* 重鎮 —— ある社会・分野で、重要な地位をしめる人物

* あしらった —— 軽んじてあつかった

【問題1】

デザインとは「表面を変える」ことだ という定義を、筆者はどのように理解していますか。五〇字以上七五字以内で説明しなさい。なお、ゝや。や「なども、それぞれ字数に数えます。

【問題2】

おぎなりなデザインとはどのようなデザインか、「よいデザイン」と比較ひかくして一〇〇字以上一二五字以内で説明しなさい。なお、ゝや。や「なども、それぞれ字数に数えます。

【問題3】

じぶんのために何かをしてもらっている、じぶんがいていねいに、そして大事に扱われているとありますが、あなたがこれまで自分が大事に扱われてきたと感じた事柄ことごとを取り上げ、そこからどのようなことを考えるのかを書きなさい。但し、次の「手順」と「きまり」にしたがって、二七五字以上三二五字以内で書きなさい。

【手順】

1 あなたがこれまで何かをしてもらったり、大事に扱われたりした経験を簡潔に書く。

2 「手順」1で書いたことと、筆者の意見を比べて、あなたが気付いたことをくわしく説明する。

3 あなたはじぶんが大事に扱われてきた経験を、どのように受け止めているのかを、本文をふまえて具体的に書く。

〔きまり〕

- 最初の行から書き始めます。
- 各段落の最初の字は一字下げて書きます。
- 段落をかえたときの残りのます目は、字数として数えます。
- 、「や。や」なども、それぞれ字数に数えます。